

市政トピックス

環境に優しい取り組みを奨励 「エコにこマイスター」認定事業者が決定

環境に優しい取り組みを行う事業者を「エコにこマイスター」として認定する制度を、本年度から開始しました。この制度は従前の「エコにこショップ・オフィス」認定制度を発展させたもので、ごみの減量やリサイクルなど、事業者の取り組み内容に応じて「エコにこマイスター」と「エコにこゴールドマイスター」の2つのラン



▲今回認定された事業者のみなさん(前列)



◀「エコにこマイスター」(左)は緑色。「エコにこゴールドマイスター」(右)は金色で三ツ星つきのシンボルマークです

クが設けられています。

このたび、初めての認定事業者が決定し、11月30日に認定証授与式を開催しました。認定を受けた事業者には、認定証やステッカー等が交付され、環境に配慮した事業者であることをPRできるようになります。

市では、認定事業者の取り組みを広く紹介し、環境保全活動の推進に努めていきます。

今回認定した事業者

- エコにこゴールドマイスター
守屋木材株式会社、株式会社奥羽木工所、守屋電気株式会社、大日本印刷株式会社仙台工場
- エコにこマイスター
株式会社デジタルトラスト、守屋運輸株式会社仙台支店、井村屋株式会社東北支店、株式会社あるく

市政トピックス

新総合計画策定に向けて「みんなのせんだい未来づくり」

市では、2030年までの10年間を計画期間とする新総合計画の策定を進めています。11月25日に

市政トピックス

青葉神社の建物が登録有形文化財に登録されます



▲大正13年に建築された本殿。伝統形式で構成された建物に中世風の意匠が巧みに施されています

11月16日に開催された文部科学省文化審議会において、青葉区青葉町にある青葉神社の建物が、国の登録有形文化財に登録されることになりました。

青葉神社は明治時代に伊達政宗公を祭るため創建された神社で、今回登録される文化財は本殿をはじめ拝殿や旧愛姫社鞘堂など6件です。今回の登録で、市内の国登録文化財は45件となります。

市政トピックス

市役所本庁舎建て替えの検討を進めます

市役所本庁舎建て替えの基本計画策定に向けた本格的な検討がスタートしています。基本計画では、8月に策定した基本構想を踏まえ、敷地利用や庁舎の規模などの具体

市政トピックス

市政トピックス

私たちもお気に入り 新しい愛称で声を掛けてね

的な設計条件をまとめます。市では、学識経験者や公募した市民等による「基本計画検討委員会」を設置。12月5日に開催された第一回会議では「障害者に配慮ある計画とすることが必要」「市民広場との一体性を考えるべき」などの意見が述べられました。今後、中間案を取りまとめ、市民の皆さんのご意見を伺った上で12月までの基本計画策定を目指します。

セルコホーム ズーパラダイス

八木山(八木山動物公園)で6月に誕生したレッサーパンダの双子の愛称が、「ユズ」と「ナツメ」に決定。2匹とも、母親と同じくらいの大きさまですくすくと成長し、やんちゃに動き回っています。また、9月にアメリカから来園した雌のアミメキリンの愛称も「アイ」に決定しました。新しい環境にも慣れ、元気に来園者をお出迎えしています。



▲雄のユズ(左)と雌のナツメ(右)



▲高校生から80歳代までの幅広い世代が参加。さまざまな視点で話し合いました

市政トピックス

車いすバスケットボール女子日本代表強化合宿in仙台

10月にインドネシアのジャカルタで開催されたアジアパラ競技大会において銀メダルを獲得した「車いすバスケットボール女子日本代表」の強化合宿が、11月26日から12月1日にかけて宮城野体育館で行われました。合宿には、市在住の藤井郁美選手・萩野真世選手も参加。2020年東京パラリンピック日本代表入りを目指し、他の国内トップクラスの選手とともに汗を流していました。



▲体験会に参加した市民は、競技用の車いすに乗り、シュート体験などを行いました

「みんなのせんだい未来づくり」を開催。約120人の市民が市の将来像について話し合いました。当日は、地域で活躍している方々によるパネルディスカッションのほか、参加者同士が「仙台の未来」や「未来に向けて、自分ができること」をテーマにグループごとに意見交換を実施。参加者からは、「まちづくりを身近な問題として考えられるようになった」「地域にとって何が必要かを考え、実践していきたい」などの声がかかれ、一人一人が市の将来を真剣に考える一日となりました。今後は、各区の魅力等について区民が話し合うワークショップを開催する予定です。これからもさまざまな機会を設け、市民の皆さんの意見を取り入れながら新総合計画の検討を進めていきます。

3.11 震災文庫を 読む

「人新世とは何か」

クリストフ・ボヌイユ + ジャン・パティスト・フレソズ / 著
野坂しおり / 訳
青土社 刊

46億年の歴史を持つ地球には多くの生命が誕生し、環境変化や大量絶滅を経ながらも発展してきました。しかし、人間による産業革命以降の変貌はますます激しく、この新たな時代を「人新世」と呼ぼうという考えが生まれました。

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本をご紹介します。

地球の過去と人間の未来

東北大学名誉教授 蟹澤 聰史



ドリアン助川 / 著
幻戯書房 刊

で走破した記録です。思いがけない場所でも高い線量が出る怖さ、多賀城や石巻には津波の爪痕が残り、被害の甚大さを肌で感じる旅となります。5年後に同じ場所を再び訪れると、汚染土を入れた黒い容器だけが増えていました。同時に、「プレートが複雑にうごめき合っている日本列島」を認識した著者の多様な心模様を読み取れます。

記憶は忘れ去られます。それは自然なことでもあり、時には故意にもなされます。芭蕉の文章が随所に織り込まれ、『奥の細道』から350年後の東北の姿も記されます。ユーモアを忘れない東北人の力強さも、生き生きと描かれている本です。

● 紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585